

## 第4回大気環境部会（R4.2.1）での委員ご意見と対応

分類	委員	意見	対応
削減策	新澤委員	高炉が止まった部分は2013年度からの出来事。産業の削減の内訳に書くべき。	2030年に向けての取組を示す計画とするため、現状の書きぶりのままとする。
削減策	増原委員	事業者は経団連含めて省エネしていく必要があるが、中小が問題。条例による義務だけではなく、支援について強調してほしい。	中小企業が問題というのは県としても認識している。中小企業の支援は「ひょうごカーボンニュートラル推進センター」がその役割を果たすことを考えている。再エネ等を導入するにもどこに聞いたらよいかということになるため、センターを設置して中小事業者の相談窓口の役割も考えている。
削減策	増原委員	事業者の入札でRE100事業者への加点はできないか。	これまでもISO14001やEA21での加点は環境部局が要望して加えてもらった。RE100宣言事業者は少ないため、すぐにはいかないが、今後検討していく。 <b>【改定案P37に記載】</b>
吸収源	新澤委員	伐採木材利用の考え方はよくわかった。森林側で伐採した分は排出にカウントされているか。	排出にカウントしている。STEP3の森林吸収源850ktは、森林吸収源分と伐採加工製品による効果の合算である。
再エネ	新澤委員	太陽光の「これまでの導入ペースを維持」にしても、線形トレンドと意味は同じ。国が言うように「再エネ優先の～」など、もう少し前向きに書けないか。	もう少し前向きな表現に改める。 <b>【改定案P26を修正】</b>
再エネ	増原委員	市町の先行地域への支援の中身として、セミナーの開催や先進事例集などでもよいので書けないか。	追記する。 <b>【改定案P37に記載】</b>
推進体制	小林委員	推進体制の図に県の研究機関が入っていない。環境研究センターなどを入れるべき。	図を修正する。 <b>【改定案P86 図表101を修正】</b>